

## 地域と一体となった防災教育の推進と教頭の役割

提言者：新潟市小学校教頭会

新潟市立濁川小学校

高島 純

### 1 提言の要旨

学校の近くには川があり、地理的環境において水害の可能性が大きい。しかし、災害に対する児童の意識や防災教育に関する職員の意識が高いとは言えない。児童の命を守るためには児童の意識改善と、職員や地域が一体となった防災教育が必要であると考え、次の5点に取り組んだ。

#### (1) 北区小学校教頭会としての取組

- ・防災教育の情報交換とマニュアルの策定
- ・防災教育の見直しの観点の共有

#### (2) 地域との連携

- ・地域総合防災訓練への参加

#### (3) 校内組織の編成と関係機関とのかかわり

- ・校務分掌の改善と役割の明確化

#### (4) 中学校と連携した取組

- ・保護者アンケート

#### (5) 防災教育カリキュラムの作成

取組の結果、災害に対する児童や保護者、職員の意識が高まった。教頭会での取組により、職員の意識と防災教育の質が向上した。

### 2 研究協議

#### (1) 全体協議から

北区での教頭会としての学校間連携は、定期的な教頭会で意見交換を行ったり、アンケートで情報交換をしたりしている。

地域との連携に広めていくには、地域と学校の防災計画を持ち寄り、意見交換しながらつなげていくことが必要である。

#### (2) グループ別協議から

A 自校の防災教育カリキュラムの課題は何か。

- ・マニュアルは整っているが、カリキュラムは整っていない。
- ・防災教育の時数確保が難しい。
- ・小中や地域などとの連携の取り方やずれのないお互いの理解方法

- ・コミュニティ協議会との防災体制の在り方
- ・防災教育と教科との関わり不明確さ
- ・児童や保護者の防災に対する危機意識が高まっていない。

B 総合防災訓練を進めていく上で、教頭は地域や関係機関とどのように連携し、校内職員へどのように働きかけていけばよいか。

- ・学校からコミュニティ協議会へプランを提案していく。その際、窓口は教頭が担う。
- ・学校独自では防災は進まない。いかに地域に関わっていけるかが大切。教頭が地域の防災会場へ積極的に出向く。
- ・中学校区で話し合い、協力し合う。
- ・防災マニュアルを職員と見直し意識を高める。
- ・地域の人材を活用した防災教育を行う。

### 3 指導助言

#### (1) 発表から

- ・現実味のある工夫がされている。
- ・昨年度の振り返りから改善を加えておりよい。こういう修正が大事。
- ・保護者、地域、学校間との連携がよい。

#### (2) 防災教育プログラムについて

- ・学校の防災教育プログラムをまず作ってみることが大切。
- ・保護者、地域住民、関係機関、幼保との連携をどのようにしていくとよいか、これからの課題である。

#### (3) これからの防災教育に必要なこと

- ・「姿勢の防災教育」の重要性とその共通理解（意識改革）
- ・実効性のある防災管理と組織活動
- ・自然に向き合う姿勢「たちつと」「た」たくましく「ち」地域に根ざして「つ」積み重ねて「て」テーマをもって「と」共に取り組む

## インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進 ～多様な教育的ニーズに応える支援体制の整備と教頭の役割～

提言者：新潟市中学校教頭会 新潟市立山潟中学校 中林 秀樹

### 1 提言の要旨

特別な教育的支援を必要とする生徒数の増加に伴い、一人一人の教育的ニーズに応じた取組の要望が強まることが予想される。教頭として、インクルーシブ教育システムの構築に向け、基礎的環境整備の充実、合理的配慮の実施等に取り組むことが大切である。

文科省指定研究開発で、スタディールーム（SR）の設置、授業のユニバーサルデザイン化の推進等に取り組んだ結果、生徒の学習に関する困り感、人間関係のトラブルや不注意・多動等の軽減が図られた。

また、新潟市中学校教頭会として研修会の実施、インクルーシブ教育システムの構築に向けた支援体制づくり等に取り組んでいる。職員の共通理解、小中連携、合理的配慮に向けた合意形成の仕方等の課題が残る。

### 2 研究協議

#### (1) 全体協議から

特別支援学級と通常の学級の中間的な立場にあるSRを保護者の希望を踏まえ数学と英語で設置した。生徒からは自己表現の場が以前にも増したなど肯定的な意見が多くみられた。一方、継続や充実に向けてはマンパワーが欠かせない。また、合理的配慮を実施する上で、保護者と職員の共通理解のために粘り強く対応していくことが大切である。

#### (2) グループ別協議から

① 特別支援教育推進のために、教頭が担う役割とは何か。

- ・関係する人とかかわり、つなぐ。
- ・校内委員会を強化し、定期的実施する。
- ・校内研修体制を充実させ、職員の温度差を解消する。
- ・コーディネーターへ適切な助言をする。
- ・現状のマンパワーを最大限に活用する。

② 合理的配慮を進めるにあたって、教頭としての課題は何か。

- ・保護者とすり合わせ、できることから進め、柔軟に対応する。
- ・どの子に対しても有効な全校体制でのスタンダードを確立する。
- ・特別支援部会を設置し、小・中の連携を一層充実させる。
- ・専門機関、医師と連携して取り組む。
- ・人権面に配慮し、校内で合理的配慮を合い言葉に取り組む。

### 3 指導助言

#### (1) インクルーシブ教育システムとは

- ・障がいのある人となない人が共に学ぶ仕組み
- ・障がいのある人が教育制度から排除されないこと
- ・自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること
- ・個人に必要な合理的配慮が提供されること

#### (2) 基礎的環境整備と合理的配慮について

- ・全員に対して分かりやすい基礎的環境整備が整うことで、障がいのある人への個別の合理的配慮が行いやすくなる。
- ・合理的配慮は障がいのある人の権利であり、本人の努力を必要としない。
- ・教頭は校内の基礎的環境整備の推進役であり、校内の様々な工夫を中継する役割。

#### (3) 合理的配慮に関する合意形成

- ・教頭は合理的配慮に関して合意形成するために関係者をコーディネートする立場。

終わりに

「インクルーシブ教育システムの構築」や「基礎的環境整備」、「合理的配慮」などの言葉が温かく、優しい意味をもち、血の通った言葉として、当たり前、使われることを目指そう。



## 教職員がコーディネート力を発揮するための教頭のかかわり

～キャリア教育・佐渡学の充実を目指して～

提言者：佐渡市中学校教頭会 佐渡市立新穂中学校 藤井 衛

### 1 提言の要旨

県は「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」を教育の重点の一つに位置付けている。佐渡市においても、「佐渡学」（＝郷土を愛し、夢と希望をもつ子どもを育てる教育）の充実が、学校教育の重要な取組となっている。

「佐渡学」の充実には、教材と生徒をつなぎ単元を構成する教職員のコーディネート力、保護者・地域・関係機関と連携する教職員のコーディネート力が不可欠である。

そこで、教職員のコーディネート力を育てるために、教頭はどのようにかかわっていけばよいか4つのキーワードから探ってみた。

- (1) 「知らせる」(教頭が教職員に地域を知らせる)
- (2) 「支える」(教頭が行事等の計画において主任層を支える)
- (3) 「育てる」(教頭が教職員の授業力を育てる)
- (4) 「上げ近づける」(教頭が教職員と講師や関係機関との連携を上げ近づける)

### 2 研究協議

#### (1) 全体協議から

総合的な学習では、地域素材や施設に思いつきで飛びつく場合が多々ある。総合的な学習のねらいと佐渡学の目的を確認し、それに合った素材を選択していくことが必要である。

#### (2) グループ別協議から

##### <協議題>

郷土を愛し、夢と誇りがもてる子どもを育む学校づくりを進めることにおいて、教職員のコーディネート力を付けるには、下記の2点に教頭としてどう取り組めばよいか。

ア) 地域を知るための研修の充実

イ) 講師や関係機関との連携

ア) 地域を知るための研修の充実

- ・地域教育コーディネーターを活用し、教頭自身が地域に出て地域を知る。

- ・研修のための時間を確保する。
- ・地域行事（祭り、清掃活動など）に積極的に参加する。職員に参加させる。
- ・新任職員へのオリエンテーションで地域巡検を行う。

- ・中学校区で、長期休業中の研修として地域巡検を行う。

#### イ) 講師や関係機関との連携

- ・学習のねらいや展開の仕方などを、担当職員と講師が事前に打ち合わせができるように、教頭が窓口となり調整する。
- ・地域教育コーディネーターを介して講師のリストを作成する。
- ・関係機関とのネットワークを作り、職員に情報提供を積極的に行い、職員の意欲を高める。

### 3 指導助言

#### (1) 発表について

- ・成果と課題のキーワードが分かりやすい。
- ・佐渡の3資産「佐渡金山世界遺産登録」「佐渡ジオパーク」「世界農業遺産(GIAHS)」は、教員をはじめとして、佐渡の人がどれだけ意識しているか疑問である。

#### (2) グループワークについて

- ・教員は、学校がある地域とのかかわりはあるが、自分が住んでいる地域を知らない。行事に積極的に参加してほしい。
- ・市民大学講座は、佐渡の歴史、文化を学ぶことができる。しかし、参加する教員がいない。教頭が率先して参加してほしい。

#### (3) 最後に

- 佐渡学により、高校を卒業しても次のような生き方ができる子どもを育ててほしい。
- ・高校を卒業して佐渡で生きていく子ども。
  - ・一度本土に出るけれど佐渡に戻ってくる子ども。
  - ・島外に出たきりでも生涯佐渡を応援する子ども。